

韮崎市 水道事業 経営戦略

団 体 名 : 韮崎市

事 業 名 : 韮崎市水道事業

策 定 日 : 令和3年3月

計 画 期 間 : 令和3年度 ~ 令和12年度

1. 事業概要

(1) 事業の現況

① 給 水

| | | | | |
|---------------------|-------------------|-------------|--------|---------------------|
| 供用開始年月日 | 昭 和 29 年 3 月 31 日 | 計 画 給 水 人 口 | 28,800 | 人 |
| 法適(全部・財務) ・非適の区分 | 法適(全部) | 現 在 給 水 人 口 | 25,929 | 人 |
| | | 有 収 水 量 密 度 | 0.22 | 千m ³ /ha |

② 施 設

| | | | | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-----------|--------|
| 水 源 | <input type="checkbox"/> 表流水、 <input type="checkbox"/> ダム、 <input checked="" type="checkbox"/> 伏流水、 <input checked="" type="checkbox"/> 地下水、 <input checked="" type="checkbox"/> 受水、 <input type="checkbox"/> その他 | | | |
| 施 設 数 | 浄水場設置数 | 1 | 管 路 延 長 | 319 |
| | 配水池設置数 | 31 | | |
| 施 設 能 力 | 16,700 | m ³ /日 | 施 設 利 用 率 | 79.7 % |

③ 料 金

| | | |
|----------------------------------|--------------------------|--|
| 料 金 体 系 の 概 要 ・ 考 え 方 | 基本料金と使用水量に応じた従量制となっています。 | |
| 料 金 改 定 年 月 日 (消費税のみの改定は含まない) | 平 成 20 年 6 月 1 日 | |

<料金表>

| 種類 | 給水料金(1月につき) | | | | |
|-------|------------------|--------|----------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------|
| | 基本水量 | 基本料金 | 超過料金(1m ³ につき) | | |
| | | | 11m ³ から50m ³ まで | 51m ³ から200m ³ まで | 201m ³ 以上 |
| 専用 | 10m ³ | 1,199円 | 150円70銭 | 210円10銭 | 267円30銭 |
| 公衆浴場用 | 10m ³ | 1,210円 | 137円50銭 | | |
| 臨時用 | 10m ³ | 3,960円 | 396円 | | |

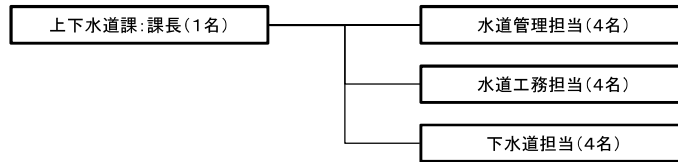
(韮崎市水道事業給水条例より)

④ 組織

○職員数

- ・上下水道課は令和2年度(2020年度)現在13名で、業務は水道事業、簡易水道事業、下水道事業の業務を担当しています。
- ・水道事業担当職員は8名であり、うち管理担当4名、工務担当4名で業務を行っています。

○上下水道課 組織図(令和2年4月1日現在)



○年齢構成

| | 20歳以上 25歳未満 | 25歳以上 30歳未満 | 30歳以上 35歳未満 | 35歳以上 40歳未満 | 40歳以上 45歳未満 | 45歳以上 50歳未満 | 50歳以上 55歳未満 | 55歳以上 |
|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-------|
| 職員数 | 0 | 2 | 1 | 1 | 3 | 3 | 1 | 2 |

(2) これまでの主な経営健全化の取組

- ①料金システムや会計システムの導入により、業務の効率化を図りました。
- ②老朽化した管路の耐震化を行うことにより、有収率の向上と漏水事故の減少に取り組んでいます。

(3) 経営比較分析表等を活用した現状分析

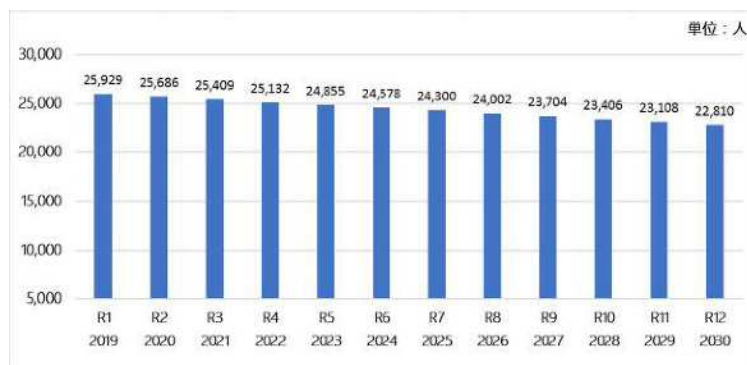
※ 直近の経営比較分析表(「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」(公営企業三課室長通知))による経営比較分析表を添付すること。

別紙資料1のとおり

2. 将来の事業環境

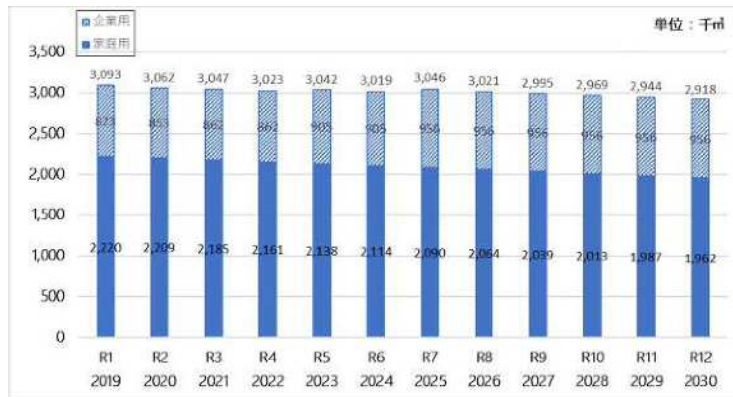
(1) 給水人口の予測

今後の給水人口の予測にあたっては、「第2期韮崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン(令和2年3月策定)」の人口推計を基に推計を行いました。計画期間の令和3年度(2021年度)の25,409人から令和12年度(2030年度)は22,810人となり、給水人口の減少が見込まれます。



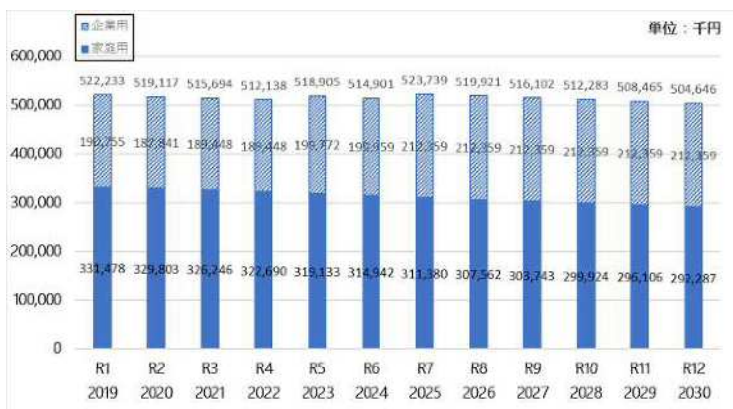
(2) 水需要の予測

水需要については、家庭における需要は人口減少に加え、節水意識の高まりや節水機器の普及により、今後も減少していくことが予測されます。一方で、企業における需要は市内主要企業等の動向を考慮すると、今後増加していくことが予測されます。全体としては微減傾向にあるものと見込まれます。



(3) 料金収入の見直し

料金収入については、料金改定がない限りは有収水量に比例するため、水需要の予測から減少傾向が見込まれます。今後、経営の健全化を図っていくためには料金改定の検討が必要です。



(4) 料金の見直し

料金収入は、計画期間の令和3年度から令和12年度で比較すると減少が見込まれます。健全経営の維持を図るため、令和6年度及び令和11年度頃には料金の見直しが必要となる見込みです。



(5) 組織の見直し

上下水道課は令和2年度(2020年度)現在13人で、水道事業、簡易水道事業、公共下水道事業の業務に当たっています。今後も業務の効率化を図るため、組織の見直しを検討していきますが、サービス水準の維持や災害時等の対応を考慮すると人員削減にも限界があることから、内外研修等の積極的な活用により、水道に精通した職員の育成、知識・技術の継承に努めていきます。

3. 経営の基本方針

① 適切で計画的な事業執行

これまでの建設投資に伴う公債費(元利償還金)の負担や維持管理費の増加傾向から厳しい経営を強いられています。限られた財政の中、適正な事業計画と財政計画を元に経営を行っていきます。

② 効率的な事業執行

業務の効率化とコスト削減に積極的に取り組みます。これまでと同様に民間委託の活用により業務の効率化を図ります。

③ 収入の確保と負担の適正化

財政基盤の強化のため、収入の確保と一般会計との負担区分の適正化を図ります。また、使用料を確実に収入するとともに、国や企業債の資金を的確に調達していきます。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画) : 別紙資料2・3のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

| 目 標 | 内容 |
|-----|----------------------------------|
| | 安定した給水を維持するため、配水管等の更新を継続的に実施します。 |

安心安全な水道施設の運用を行うために、中長期的な視点に立って、技術的な知見に基づいた施設整備・更新需要の見直しについて検討し、着実な耐震化及び老朽化更新投資を行っていきます。

水道施設の基幹となる施設の耐震化対策として、平成24年度から取り組んでいる各配水池や基幹管路の耐震化について継続実施をしていきます。

老朽化した水道施設の更新について、老朽化の指標は法定耐用年数が基準となっているため使用期限を表すものではありませんが、管路については実使用年数や漏水状況も考慮して優先順位の高いものから計画的な更新を行うとともに、下水道整備事業及びその他の公共事業と合わせて更新を行っていきます。同様に、ポンプや計装機器等の機械・装置についても老朽化率が高い状況がありますが、保守点検の委託により、必要に応じて更新を行っていきます。

なお、更新時には地域の実情に合わせて必要に応じてダウンサイジングの検討を行い、更新事業費の低減を図ります。

② 収支計画のうち財源についての説明

| 目 標 | 内容 |
|-----|-------------------------------|
| | 水需要の予測を踏まえた投資財源の確保と料金水準の妥当性評価 |

財政計画は、令和元年度決算、令和2年度決算見込みを基に令和3年度から令和12年度までの試算を行いました。なお、収益的収入については消費税を除く金額とし、物価上昇は見込んでいません。

(ア) 収益的収支の収入の部

a. 料金収入(給水収益)

給水収益は人口減少が続くことから現状のままでは経営状況が悪化する見直しとなるため、定期的な料金の見直しも含めて算出しています。

b. 受託工事収益

これまでも実績がないことから、見込んでいません。

c. その他(他会計負担金・その他の営業収益)

令和元年度決算数値を参考に見込んでいます。

(イ) 資本的収支の収入の部

a. 企業債

耐震化事業の財源として発行しているため、耐震化計画に基づいて見込んでいます。

b. 他会計補助金

算出基礎としている企業債(統合水道に係る事業統合前の簡易水道の建設改良に要する経費)に比例して減少するものと見込んでいます。

c. 他会計負担金

他会計事業の継続に伴い、同程度の収入で見込んでいます。

d. 工事負担金

他会計事業及びその他の公共事業の継続に伴い、同程度の収入で見込んでいます。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

| | |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①委託料に関する事項 | 施設の適正な管理を行っていくために専門性の必要な業務については委託を実施しています。今後も必要に応じて民間委託の活用を検討していきます。 |
| ②修繕費に関する事項 | 継続的な老朽管の更新により有収率の向上と漏水事故の減少を図り、修繕費の抑制を目指します。 |
| ③動力費に関する事項 | 設備の更新時には省電力化を図る等、動力費の抑制に努めます。 |
| ④職員給与費に関する事項 | これ以上の職員削減は困難な状況にあることから現在の職員数は変えずに、これまでの昇給水準をベースに算出しました。なお、職員給与費の削減策として、退職職員の補充に再任用職員や、会計年度任用職員を充てています。 |
| ⑤受水費に関する事項 | 安定した給水の維持のため、峡北地域広域水道企業団からダム水を受水しています。今後も同様の責任水量を見込んでいます。 |

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 投資の合理化、費用の見直しについての検討状況等

| | |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------|
| 広 域 化 | 山梨県の広域化計画の方針に基づいて検討していくとともに、簡易水道との統合を目指します。 |
| 民間の資金・ノウハウ等の活用 (PPP/PFI等の導入等) | 今後の経営状況を踏まえ、必要に応じた包括的民間活力の活用を検討していきます。 |
| アセットマネジメントの充実 (施設・設備の長寿命化等による投資の平準化) | アセットマネジメント計画を策定し、事業費の平準化を図ります。 |
| 施設・設備の廃止・統合 (ダウンサイジング) | 水需要の動向を踏まえながら、地域の実情に合わせて統廃合を検討していきます。 |
| 施設・設備の合理化 (スペックダウン) | 水需要の動向を踏まえながら、施設規模や管路の口径・配置の合理化について検討していきます。 |
| その他の取組 | — |

② 財源についての検討状況等

| | |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 料 金 | 人口減少に伴い、給水人口及び給水収益が減少すると見込まれることから、水道料金の見直しを検討していきます。適正な料金を設定することで健全経営に努めます。 |
| 企 業 債 | 毎年度計画的に管路耐震化事業に取り組んでいくため、今後も企業債の発行が見込まれることから発行する企業債について残高や利息水準が適切になるように検討していきます。 |
| 繰 入 金 | 地方公営企業繰出基準に基づいた繰入のほか、受水費を賄うため独自の基準を設けて繰入を行っていますが、料金の見直し等により繰入額の削減に努めます。 |
| 資産の有効活用等(*2)による 収入増加の取組 | 使用見込のない遊休資産が生じた場合は、転用や貸付、売却等を検討し、財源の確保に努めます。 |
| その他の取組 | — |

5. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

| | |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営戦略の事後検証、 改定等に関する事項 | 事業の進捗管理(モニタリング)は毎年度確認し、計画と実績の乖離を検証するとともに、見直し(ローリング)を概ね5年ごとに行い、事後検証及び更新等に取り組んでいきます。 |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|

経営比較分析表（令和元年度決算）

山梨県 韮崎市

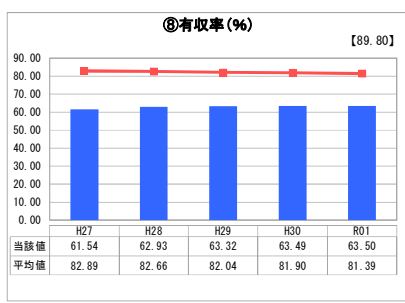
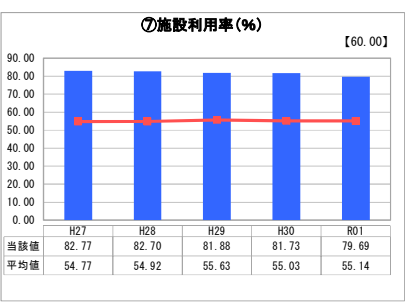
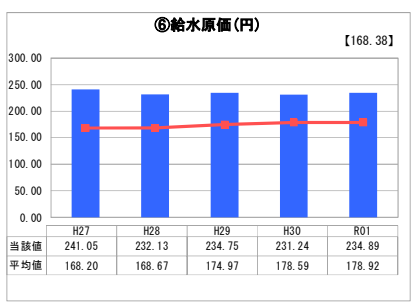
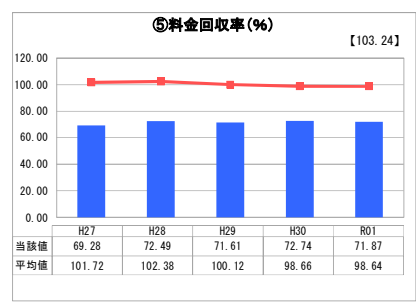
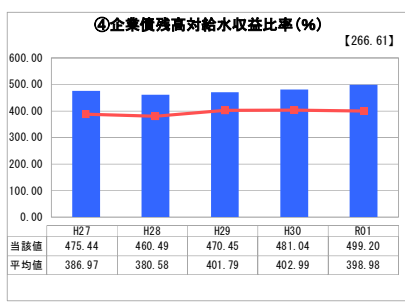
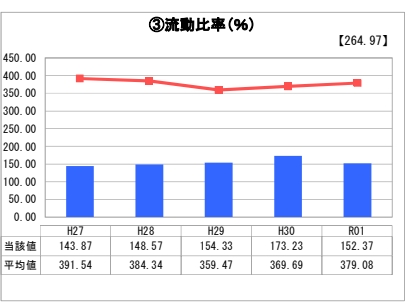
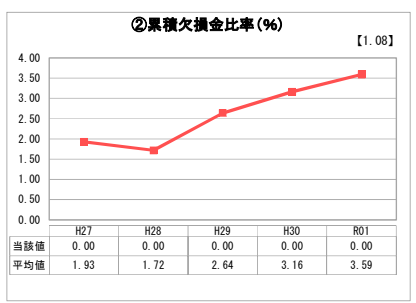
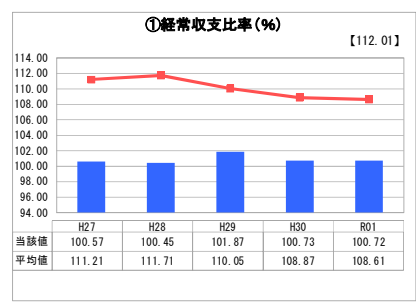
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A6 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20㎡当たり家庭料金(円) | |
| - | 53.10 | 89.03 | 2,816 | |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 29,334 | 143.69 | 204.15 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 25,929 | 15.71 | 1,650.48 |

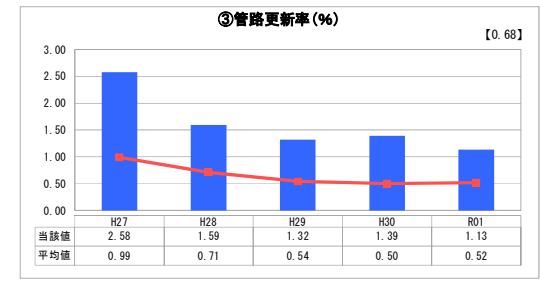
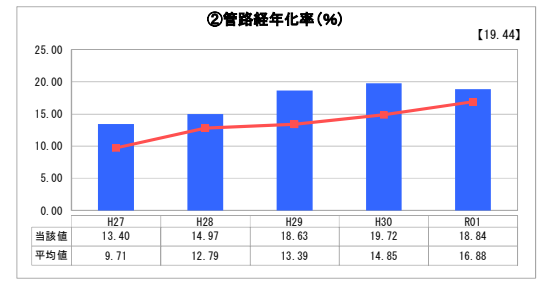
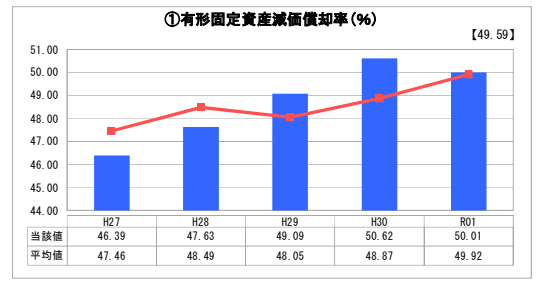
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金比率は0%であり、経常収支比率が100%を超えていることから、例年健全経営ができていると言えるが、類似団体と比較すると低く、さらなる経営改善が必要と判断される。
 流動比率は100%を超えており、当面の資金は確保できているが、一般的に適正と言われていた200%には到達できていない。また、企業債残高対給水収益比率及び給水原価が高く、料金回収率が低いことから、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていると言えるため、今後適正な料金の見直しが必要である。
 施設利用率の高さから、施設が有効に利用されていると判断できるが、湯水・故障等必要以上の供給時は対応が難い場合もあると考えられる。
 有収率は類似団体と比較しても低く、供給している水量が収益に結びついていないため、漏水調査・老朽管更新等の対策を講じている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却費及び管路経年率は減少しており、管路更新率も類似団体と比較すると若干高くなっているため、計画的に更新が図られていると言える。
 平成28年度以降、配水池築造のため更新率はやや抑えられているが、配水池完成後は財政状況及び管路の状況を考慮し、更新速度の見直しも検討する。

全体総括

給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われている。有収率は低く供給している水量が収入に結びついていない。また、老朽管更新及び有収率向上を目的として平成24年度より管路耐震化事業を実施していることにより、企業債償還額及び減価償却費等経費が増加している。
 今後、少子高齢化による給水人口の減少により、更に給水収益は減少すると見込まれ、また老朽化した施設・管路の更新等経費の増加が見込まれることから、施設の統廃合・事業の広域化等の経費削減や、適切な水道料金の見直しの検討が必要である。

様式第2号(法適用企業・資本的収支)

投資・財政計画
(収支計画)

(単位:千円)

| 区 分 | | 年 度 | | 本年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | |
|------------------------------------|------------------------------|--------------|-------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|
| | | 前々年度 (決算) | 前年度 (決算) 見込 | | | | | | | | | | | |
| 資本的 収入 | 1. 企業債 | 208,200 | 145,000 | 145,000 | 145,000 | 145,000 | 145,000 | 145,000 | 150,000 | 150,000 | 150,000 | 150,000 | 150,000 | |
| | うち資本費平準化債 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2. 他会計出資金 | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 他会計補助金 | 30,766 | 31,660 | 32,582 | 33,533 | 31,683 | 29,597 | 25,286 | 20,940 | 12,178 | 655 | | | |
| | 4. 他会計負担金 | 5,028 | 5,630 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | 5,500 | |
| | 5. 他会計借入金 | | | | | | | | | | | | | |
| | 6. 国(都道府県)補助金 | | | | | | | | | | | | | |
| | 7. 固定資産売却代金 | | | | | | | | | | | | | |
| | 8. 工事負担金 | 128,122 | 96,683 | 110,000 | 110,000 | 110,000 | 110,000 | 110,000 | 110,000 | 110,000 | 110,000 | 110,000 | 110,000 | |
| | 9. その他 | 4,840 | | | | | | | | | | | | |
| | 計 (A) | 376,956 | 278,973 | 293,082 | 294,033 | 292,183 | 290,097 | 285,786 | 286,440 | 277,678 | 266,155 | 265,500 | 265,500 | |
| | (A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B) | | | | | | | | | | | | | |
| | 純計 (A)-(B) (C) | 376,956 | 278,973 | 293,082 | 294,033 | 292,183 | 290,097 | 285,786 | 286,440 | 277,678 | 266,155 | 265,500 | 265,500 | |
| | 資本的 支出 | 1. 建設改良費 | 361,120 | 265,408 | 270,500 | 270,500 | 270,500 | 270,500 | 270,500 | 275,500 | 275,500 | 275,500 | 275,500 | 275,500 |
| うち職員給与費 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 企業債償還金 | | 160,618 | 176,153 | 185,229 | 189,832 | 190,093 | 196,474 | 177,522 | 157,064 | 115,182 | 73,686 | 67,506 | 71,611 | |
| 3. 他会計長期借入返還金 | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 他会計への支出金 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. その他 | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 (D) | 521,738 | 441,561 | 455,729 | 460,332 | 460,593 | 466,974 | 448,022 | 432,564 | 390,682 | 349,186 | 343,006 | 347,111 | | |
| 資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (E) (D)-(C) | 144,782 | 162,588 | 162,647 | 166,299 | 168,410 | 176,877 | 162,236 | 146,124 | 113,004 | 83,031 | 77,506 | 81,611 | | |
| 補填財源 | 1. 損益勘定留保資金 | 127,527 | 144,564 | 145,647 | 149,299 | 151,410 | 159,877 | 145,236 | 129,124 | 96,004 | 66,031 | 60,506 | 64,611 | |
| | 2. 利益剰余金処分量 | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 繰越工事資金 | | | | | | | | | | | | | |
| | 4. その他 | 17,255 | 18,024 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | |
| 計 (F) | 144,782 | 162,588 | 162,647 | 166,299 | 168,410 | 176,877 | 162,236 | 146,124 | 113,004 | 83,031 | 77,506 | 81,611 | | |
| 補填財源不足額 (E)-(F) | | | | | | | | | | | | | | |
| 他会計借入金残高 (G) | | | | | | | | | | | | | | |
| 企業債残高 (H) | 2,606,973 | 2,575,820 | 2,535,591 | 2,490,759 | 2,445,666 | 2,394,192 | 2,361,670 | 2,354,606 | 2,389,424 | 2,465,738 | 2,548,232 | 2,626,621 | | |

○他会計繰入金

(単位:千円)

| 区 分 | | 年 度 | | 本年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 |
|------------|----------|--------------|-------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 前々年度 (決算) | 前年度 (決算) 見込 | | | | | | | | | | |
| 収益的 収支分 | | 161,419 | 203,000 | 157,000 | 160,000 | 153,000 | 139,000 | 130,000 | 136,000 | 144,000 | 151,000 | 143,000 | 152,000 |
| | うち基準内繰入金 | 4,286 | 2,814 | 2,353 | 1,878 | 1,403 | 1,041 | 596 | 303 | 96 | 4 | | |
| | うち基準外繰入金 | 157,133 | 200,186 | 154,647 | 158,122 | 151,597 | 137,959 | 129,404 | 135,697 | 143,904 | 150,996 | 143,000 | 152,000 |
| 資本的 収支分 | | 35,794 | 37,290 | 38,082 | 39,033 | 37,183 | 35,097 | 30,786 | 26,440 | 17,678 | 6,155 | 5,500 | 5,500 |
| | うち基準内繰入金 | 20,411 | 21,460 | 21,791 | 22,266 | 21,341 | 20,298 | 18,143 | 15,970 | 11,589 | 5,827 | 5,500 | 5,500 |
| | うち基準外繰入金 | 15,383 | 15,830 | 16,291 | 16,767 | 15,842 | 14,799 | 12,643 | 10,470 | 6,089 | 328 | | |
| 合 計 | | 197,213 | 240,290 | 195,082 | 199,033 | 190,183 | 174,097 | 160,786 | 162,440 | 161,678 | 157,155 | 148,500 | 157,500 |